

# 山田町まなびの時間

「みえ発！ボラパックⅡ」では、山田町での活動時間が1日半と短いため、ともすれば活動のみに追われ、山田町のことをほとんど知らないまま帰路につくこととなります。第1便で団体参加の方が地元漁師さんのお話をお聞きしたことがきっかけとなり、第2便では山田町到着時の移動時間を使って町内を視察、宿泊先に仮設団地の区長さんをお招きし、ご自身の被災体験や今の思いをお話しいただきました。こうして、第1便・第2便に参加された方のご意見やご感想をもとに、第3便より、山田町滞在中にボランティア活動だけではなく「山田町について学ぶ時間」を設けることになりました。

およそ1時間30分の「まなびの時間」では、山田町住民の方に「山田町まなびのガイド」として、町を案内していただきながら、震災当時の体験や町の被害状況・復興の様子、この町がどういうところだったのか、ご自身の思いなどを語っていただきます。

これにより、短期間の活動だけでは見えにくい様々な状況や復旧・復興の状況、課題などを知り、より親身に活動に打ち込むことができ、さらに将来の災害に備えて、自分が何をすべきか考えるきっかけを得ることができたのではないのでしょうか。

## 「山田町まなびの時間」プログラム ガイドの依頼・ルート設定は現地スタッフが対応。内容は便ごとに変まりました。

- |  |  |  |
|--|--|--|
| 2便<br>4.28<br>震災時の体験と町の現状<br>仮設住宅団地区長  | 3便<br>5.12<br>被災体験と復興への私見<br>浜のミサガ山田代表   | 4便<br>5.26<br>郷土史から見る津波<br>山田町文化財保護審議会委員   |
| 5便<br>6.9<br>避難生活の体験談<br>主婦2名  | 6便<br>6.23<br>災害時の消防団活動<br>山田町消防団前団長     | 7便<br>7.7<br>震災時の体験（避難所の様子）<br>理容店経営者  |
| 8便<br>7.14<br>災害廃棄物処理の現状<br>災害廃棄物処理場職長   | 9便<br>7.28<br>山田町の現在<br>町議会議員            |  |
| 10便<br>8.3<br>震災による教育現場の変化<br>山田町教育委員会   | 11便<br>8.6<br>震災時の山田の状況と体験<br>前山田町長      |  |
| 12便<br>8.18<br>震災時の体験と町の現状<br>仮設住宅団地区長   | 13便<br>8.25<br>震災時の山田町と保育所<br>保育所長       |    |
|  | 14便<br>9.8<br>被災体験と現状<br>学習塾経営者          |  |
|  | 16便<br>9.22<br>震災時の消防対応<br>山田町消防団前分団長    | 17便<br>9.27<br>震災後の3次産業<br>山田町観光協会   |
|  | 18便<br>10.13<br>鯨と海の科学館の現状見学<br>鯨と海の科学館  | 19便<br>10.27<br>震災時の山田町と保育所<br>保育所長  |
|  | 20便<br>11.10<br>災害廃棄物処理の現状<br>災害廃棄物処理場職長 | 21便<br>11.24<br>震災時の山田の状況と体験<br>前山田町長  |

※22便は拡大版で設定。多くの方にご協力いただきました。

## 『山田町まなびガイド』の「声」



震災で家族・財産・人生設計をも奪われ途方に暮れていた時、いち早く手を差し伸べてくれたのが、みえ災害ボランティアの皆さんでした。温かい気持ちのこもった勇気ある支援活動に、何時の日からか皆様にお会いするのが楽しみになりました。被災者は時間が経つにつれて、誰かに話したい・聞いてもらいたいという思いが働きます。山田町を学ぶ活動は、その被災者をソフト面から支援できる。みえ災害ボランティアの皆さんだからこそできることと、心を打たれました。復興までの道行きは遠いですが、焦らず頑張っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

第17・18・22便ガイド 山田町観光協会 事務局長 湊 敏さん



「まなびの時間」に町を紹介する機会を与えて頂いてありがとうございました。紹介は適切であったかどうか不安はありますが郷土史として、寛文の時代に受けた漁業技術指導、三重県との交流が古くから、現在に至るまで続いていることを皆さんに伝えたかったのであります。今また、東日本震災によって被災地となった山田町に対して、三重県の方がこのようにボランティアとして支援下さることに感謝申し上げるばかりです。ご苦労さまです。ありがとうございました。

第4便ガイド 文化財保護審議委員会委員 川端弘行さん



震災からやがて2年。一昨年の東日本大震災は、マスコミ等に取り上げられることも少なくなってきています。三重県から本町を訪れるボランティアの皆さんが「学びの時間」をとおして、私の話に目と耳を傾け、真剣に被災地の現状を理解しようとする姿勢に敬服しています。被災地に暮らす者として、ご支援いただいた全国の皆さんの心に応えるために、そして、東日本大震災を風化させないために、経験と教訓を語り継いでいかなければならないと考えております。

第13・19便ガイド 山田町第一保育所長 阿部哲雄さん



「まなびの時間」で山田祭のことを聞いていたことで、活動の中でも話に花が咲くこともありました。偶然に虎舞の頭（かしら）を作っていたらしゃる方と活動中にお会いできたことも、「まなびの時間」の効果です。

ガイドをお願いした方に、辛い経験や記憶をお話いただくことは、正直気が咎めることもありました。ですが、ガイド活動を通じて「山田町が好き」という気持ちを新たにされたり、「山田町を知ってほしい」という気持ちをボランティアに伝えることに喜びを見出してくださる方もいらっしゃいます。「忘れないでほしい」という気持ちは、きっと多くの「みえボラ」の心に届いたことでしょう。

## 物資支援

今年度も、多方面から多くの物資支援のお申し出をいただきました。復旧、復興が進む2年目の支援活動の中で、「物を送るだけの物資支援はしない」の指針のもと、ニーズ調査によっては時にはお断りすることもありました。活動用資材として使わせていただいたハンドクリームは、「みえ発！ボラパックⅡ」第1便から第22便までの長期にわたり、山田町のみなさんの笑顔のもととなりました。



花苗は町内の各地に可憐な花を咲かせ、春にまた花を見るためにと、手入れをするおかあさん達の明るい声が響きました。他にも、住民の方の要望で集めたシーツや浴衣は仮設談話室での布ぞうり作りに活用されるなど、どの物資も、ちゃんと『みんなのえがお』につながっています。

## 山田町ではってマップ

平成23年12月に第1号を発行した「山田町ではってマップ」も、再開店舗の紹介を中心に第6号（1号改訂版）まで号を重ね、山田町内外の方々に、広く使われるまでになりました。

第5号では仮設住宅にスポットを当てて制作。仮設住宅は通称で呼ばれることもあって、自分の住むところ以外は正確な場所がわかりにくいという声から発行にいたりしました。

少しでも見やすく、使いやすい地図になるように試行錯誤しながら制作しています。

この「山田町ではってマップ」は、広報やまだに折り込み、町内全戸に配布したほか、町外の方にも手に取っていただけるよう、道の駅やまだをはじめ、町内各所にも設置しています。

また、事務局ホームページでもPDF版を公開しています。

### 発行履歴

- 第2号 平成24年3月1日発行  
船越・織笠・田の浜・大浦地区
- 第3号 平成24年4月1日発行  
大沢・北浜・山田地区
- 第4号 平成24年4月1日発行  
豊間根地区
- 第5号 平成24年6月15日発行  
仮設団地・最寄バス停・緊急避難場所
- 第6号 平成24年8月1日発行  
山田町中心部（第1号改訂版）